

(別紙)

令和6年度(令和5年度からの繰越分)障害福祉分野のロボット等導入支援事業
(施設等に対する導入支援分) 事業報告書

※導入機器ごとの効果や目的等を把握するため、導入機器ごとにそれぞれ作成をしてください。(一体的に利用している機器を除く)

自治体名 長野県

【基本情報】

フリガナ	ヨコハマシャカイフクシキョウカイ
法人名	横浜社会福祉協会
フリガナ	スワコノホトリ
事業所名	すわ湖のほとり
施設・事業所種別(指定を複数受けている場合は、補助上限額を適用する施設・事業所を選択)	
障害者支援施設	
職員数(常勤換算数)【「従事者の1ヶ月の勤務時間」/「事業所等が定めている、常勤の従事者が勤務すべき1週間の時間数 × 4(週)」にて算出(産休・育休、休職は除く)】	
36.6 人	

(1)主な導入機器内容(種別・機器名等)

機器の種別: ☒ 移乗介護 ☐ 排泄支援 ☐ 入浴支援
☐ 移動支援 ☐ 見守り・コミュニケーション

機器名(導入台数) モーリフトムーバー205/床走行式介護リフト 1台

(2)ロボット機器等導入前の定量的指標及びロボット機器等導入後の定量的指標

① ロボット機器等導入前の業務時間内訳

業務内容		A.業務従事者数	発生件数		D. 1件当たりの 平均処理時間(分)	人時間 E(A×C×D)	1人あたり 業務時間 (C×D/A)
			B.ひと月当たり	C.年間発生件数(B×12)			
直接介護	1 移動・移乗・体位変換	3 人	486 件	5,832 件	6 分	1,750 人時間	194 時間
	2 排泄介助・支援			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	3 生活自立支援(※1)			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	4 行動上の問題への対応(※2)			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	5 その他の直接介護			0 件		0 人時間	#DIV/0!
間接業務	6 巡回・移動			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	7 記録・文書作成・連絡調整等(※3)			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	8 見守り機器の使用・確認			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	9 その他の間接業務			0 件		0 人時間	#DIV/0!
			486 件	5,832 件	6 分	1,750 人時間	#DIV/0!

※1 入眠起床支援、利用者とのコミュニケーション、訴えの把握、日常生活の支援
※2 徘徊、不潔行為、昼夜逆転等に対する対応等
※3 利用者に関する記録等の作成、勤務票等の作成、申し送り、文書検索等

以下の※1及び※2については、ロボット機器等導入前の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

<※1>B. ひと月当たり発生件数の算出方法

生活施設として移乗支援場は50名の利用者に対しては24H中に数多く発生している。標記は業務を抜粋し起床時の業務について示すものとします。
起床時場面の移乗介助において、全面的な支援且つ職員2名の対応にて支援を実施する利用者は15名。15名が起床のために車椅子への移動する業務場面について算出した。
(このほか提示であっても終日の移動支援支援は定時だけでも1日平均8回ほどの移送支援を実施。具体的には、起床時、朝食後、排泄支援、昼食前後、排泄支援、夕食前後の支援を実施)

<※2>D. 1件当たりの平均処理時間の算出方法

移乗支援を職員による検証(2組)より平均を算出。着替えを済ませた後より、車椅子⇄ベッドの準備・確認、移動支援の実施、ポジショニングの調整までの過程を15名の実施をすると90分ほどかかるためこの数値より平均値を算出の双方の通知より平均処理時間を決定。

② ロボット機器等導入後の業務時間内訳

業務内容		A.業務従事者数	発生件数		D. 1件当たりの 平均処理時間(分)	人時間 E (A×C×D)	1人あたり 業務時間 (C×D÷A)
			B.ひと月当たり	C.年間発生件数(B×12)			
直接介護	1 移動・移乗・体位変換	3 人	486 件	5,832 件	4 分	1,166 人時間	130 時間
	2 排泄介助・支援			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	3 生活自立支援(※1)			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	4 行動上の問題への対応(※2)			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	5 その他の直接介護			0 件		0 人時間	#DIV/0!
間接業務	6 巡回・移動			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	7 記録・文書作成・連絡調整等(※3)			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	8 見守り機器の使用・確認			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	9 その他の間接業務			0 件		0 人時間	#DIV/0!
			486 件	5,832 件	4 分	1,166 人時間	#DIV/0!

以下の※3及び※4については、ロボット機器等導入後の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

<※3>B. ひと月当たり発生件数の算出方法

生活施設として移乗支援場は50名の利用者に対しては24H中に数多く発生している。今標記は抜粋し起床時の業務について示すものとしています。
移乗介助においては、当施設ではペア介助を基本として業務にあたっています。上記の機器導入したことにより夜間時業務の3名の業務は、職員ペア支援組と機器1名支援の2体制(現状は1体制)で起床業務にあたることができた。15名のうち8名が機器使用者の体制で実施することが効果が見られる。このため移乗支援人数(件数)としては変わりなし。

<※4>D. 1件当たりの平均処理時間の算出方法

上記の支援方法をとることで起床対応の時間が90分⇒60分に起床業務を完了することができている。この30分差を数値に反映させることとした。

年間業務時間数想定削減率(%)

33.3%

(3) 削減率が20%を超える場合は、その要因について記載すること。

安心・安全を前提にペア介助を奨励しており。昨今のマンパワーが足りない現状では特に時間と労力が掛かってしまう。そこで、人員の代わりに介護機器とのペア体制を構築することにより安全かつペア支援の数が増える現状がうまれる。この事により時間の短縮と同時に支援数の分散にもなり労力の削減ができたと考えている。

(4) ロボット機器等の導入により得られた効果

今回機器を導入したことで現場職員の声を上げさせていただく。
・業務分散のペア数が増えることで、全ご利用者の移動支援に渡る時間の短縮が可能になった。
・機器を使用することで、ご利用者の観察(目配り・気配り)がより一層できる。
・腰痛を訴える職員であっても機器を使用することで、職員同士負担替えずに業務を遂行でき、また腰痛悪化を防げる。

(5) 今後の課題

・機器を増やしたいが購入費用が掛かってしまう。
・過信することなく安全に活用する技術研修の継続。
・利用者への活用の周知・理解。

(6) 気づき等について

第一に感じることは、時間の削減につながる効率化はもちろんですが、職員の腰痛に関する予防やサポートにとっても有効であることがあげられる。
マンパワーが足りないなか、せっかく意欲ある担い手(職員)の健康をサポートしていくことが利用者の処遇向上と感じています。アナログからロジックに変動していくことは利用者も戸惑う面もあるように見受けられますが、この両輪を有効に今後に進めていくことが重要と強く感じています。

(7) 費用面での効果(ロボット機器等の導入による費用の削減の有無を必ず選択すること。)

ロボット機器等の導入による費用の削減	無
--------------------	---

ロボット機器等の導入による費用の削減が「有」の場合、以下を回答すること。

削減額(円/月)	
職員の賃上げ等への充当	
その他職場環境の改善への充当(※1)	
サービスの質の向上に係る取組への充当(※2)	

(※1) その他職場環境の改善の具体的な内容について記載すること。

(※2) サービスの質の向上に係る取組の具体的な内容について記載すること。